

（様式 1）実施報告書-プログラム B

1 補助事業者情報

団体名	大阪府
-----	-----

2 事業の概要

1. 事業の名称	地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業
2. 事業の期間	令和2年4月1日～ 令和3年3月10日（12カ月間）
3. 事業実施前の現状と課題	
ア) 大阪府における地域日本語教育の現状	
地域の識字・日本語教室（約200教室）における日本語学習者数及び日本語学習支援者数（ボランティア）の推移：	
平成25年度と平成29年度の比較で <u>学習者数の増加が20%に対し、学習支援者の増加は10%を下回る。</u>	
学習者数	平成25年度 4,358人 ⇒ 平成29年度 5,232人 約20%増
学習支援者数	平成25年度 2,682人 ⇒ 平成29年度 2,948人 約10%増
（「平成29年度大阪府識字・日本語教室活動状況調査」による）	
（参考）同年度における大阪府の在留外国人数の増加	
平成25年度	203,921人 ⇒ 平成29年度 228,474人 約12%増
現在	255,894人（令和元年末時点）
イ) 大阪府における地域日本語教育の課題	
大阪府における地域日本語教育の課題として、上記アで示した通り、学習者数の増加に対して学習支援者数の増加が追いついていないという課題があるため、文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を活用し、市町村における日本語学習支援者養成のための講座実施や地域日本語教育の実施などの取組への支援を行った。	
さらに、「入管法」改正、「日本語教育の推進に関する法律」施行、「日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」閣議決定を踏まえ、下記の3点に重点的に取り組み、国が示す「地域日本語教育の総合的な体制づくり」を推進した。	
① 市町村における事業予算の確保	
② 府域に司令塔、市町村に核となる人材の配置	
③ 市町村間・教室間連携のより一層の強化	
4. 目的	
府内に地域日本語教育の司令塔機能を置くとともに、地域日本語教育コーディネーターが、当該地域や在住する外国人等の特性に対応した教育プログラムを策定し、地域内の識字・日本語教室への指導・助言等を行う総合的な体制をつくる。	

3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。）



(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

府内市町村との連携・協力として、令和2年度は府内12市（豊中市、池田市、箕面市、茨木市、交野市、東大阪市、柏原市、松原市、大阪狭山市、和泉市、貝塚市、阪南市）と連携して本事業を実施した。さらに、総括コーディネーターを中心として、府内の識字・日本語学習行政担当者が一堂に会する「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」を年2回実施し、日本語教育に係る情報の交換・共有を行うとともに、同会議において府内市町村を8ブロックに分けてブロック別会議を行うなど、府と市町村の識字・日本語学習行政担当者が連携・協力して市町村域を越えた取組をすすめた。

関連団体との連携・協力として、大阪府内の識字・日本語施策や事業の推進に中心的な役割を担ってきた「大阪識字・日本語協議会」から指導・助言を受け事業を実施した。さらに、識字・日本語学習活動に長年取り組み、府内の識字・日本語学習活動に関するネットワークを有している大阪府識字・日本語学習コーディネーターと総括コーディネーターとの会議である「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」を年3回実施し、コーディネーター間の連携・協力を図りながら日本語教育に係る情報の交換・共有をすすめた。

4 令和2年度の事業概要

1. 令和2年度の実施目標				
識字・日本語学習活動促進に係る課題である「学習活動への支援」、「教室運営への支援」、「人材の育成」、「識字・日本語教室に対する情報の共有や周知・広報」、「連携・協力体制の構築等」に関する課題解決をめざし、地域の実状を踏まえた識字・日本語学習活動の実施状況を把握し、行政と民間のネットワークの連携により、大阪府内の識字・日本語活動の充実をはかる。				
2. 実施内容				
(取組1) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	上杉 孝實	京都大学	名誉教授	指導・助言
2	森 実	大阪教育大学	教授	指導・助言
3	高橋 定	識字・日本語連絡会	副代表幹事	指導・助言
4	柴原 浩嗣	大阪府人権協会	業務執行理事 兼事務局長	指導・助言
5	岡田 耕治	識字・日本語センター	事務局長代行	指導・助言
6	有田 典代	NPO法人 関西国際交流団体協議会	理事	指導・助言
7	石橋 由紀子	NPO法人市民活動 フォーラムみのお		指導・助言
8	北川 辰弥	大阪府教育庁市町村 教育室地域教育振興課	課長	行政担当者
9	大西 秀紀	大阪府府民文化部 都市魅力創造局国際課	課長	行政担当者
10	井上 慎一	大阪府府民文化部	課長	行政担当者

		人権局人権擁護課		
11	大多 一史	大阪府教育委員会事務局 生涯学習部生涯学習担当	課長	行政担当者
12	松尾 敏之	堺市市民人権局 人権部人権推進課	課長	行政担当者

②実施結果

実施回数	大阪識字・日本語協議会 2 回＋大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 2 回
実施 スケジュール	9 月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 10 月 大阪識字・日本語協議会 2 月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 3 月 大阪識字・日本語協議会
主な検討項目	9 月・10 月 当年度 識字・日本語学習支援への取組実施状況について 2 月・3 月 次年度 識字・日本語学習支援への取組計画について

(取組 2) 総括コーディネーターの配置

総括コーディネーター 1	内山 美智子
所属	大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課 職名 首席指導主事
総括コーディネーター 2	松村 平
所属	大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課 職名 主任社会教育主事

(取組 3) 地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。	
・地域日本語教育コーディネーター 1	榎原 智子
担当地域	池田市 所属 (特活) 北大阪ダイバーシティ 職名 日本語教師
・地域日本語教育コーディネーター 2	河合 大輔
担当地域	箕面市 所属 (公財) 箕面市国際交流協会 職名 事業課長
・地域日本語教育コーディネーター 3	岩田 光弘
担当地域	貝塚市 所属 かいづか国際交流協会 職名 理事
・地域日本語教育コーディネーター 4	森中 政司
	貝塚市 所属 かいづか国際交流協会 職名 委員
地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【(○)】	
・貝塚市 地域日本語教育コーディネーター育成の取組	
【目標】泉州地域内の日本語教室の状況把握や情報発信、教室環境の整備と改善する。	
【実施場所】泉州地域内の日本語教室・貝塚市内企業等	
【内容】	
○連絡調整や教室運営	
コロナ禍における教室運営について、泉州地域内の日本語教室の状況調査や新型コロナウイルス感染予防対策を講じた教室運営ができるよう日本語学習者・日本語学習支援者へ注意喚起等の情報発信と教室環境の整備と改善に努めた。教室運営においては、日本語学習支援者への連絡・スケジュール管理や調整を随時行い、最新の情報を取りこぼさないよう適宜ヒアリング調査等を行った。	

実施期間：令和2年4月1日～令和3年1月29日

調査先：阪南市日本語クラブ、泉南市日本語教室、泉佐野地球交流協会（ica）、岸和田市国際親善協会、泉大津市日本語教室あいうえお等の地域日本語教室等

○企業との連携・協力体制の構築

多くの外国人技能実習生が働く市内の企業を訪問し、外国人の労働状況や日本語教育のニーズについてヒアリングを行い、新規学習希望者の受入に尽力した。

実施日：令和2年10月6日（火）

訪問先：①株式会社菰下鋳断：部長 中野浩氏と面会

②株式会社アサヒウェルネスフーズ：総務課 森下哲也氏と面会

③阪和精密工業株式会社：メール案内・日本語教室・講座予定のチラシを送付

○その他業務

日本語学習支援者のスキルアップに繋がるようブラッシュアップ講座の開講へ向け、講師と打合せを行い、周知のために近隣地域へ開催案内の送付やポスターの配布を行った。

詳細①案内促進チラシ、ポスター配布郵送作業実施：令和2年9月28日（月）

発送先：阪南市日本語クラブ、泉南市日本語教室、泉佐野地球交流協会（ica）、岸和田市国際親善協会、泉大津市日本語教室あいうえお等の地域日本語教室。

詳細②ブラッシュアップ講座実施：11月28日（土） 14時～16時

これらの取組に次期コーディネーター候補者も同席し、教室の連絡調整やブラッシュアップ講座講師との打合せ業務等を地域日本語教育コーディネーターとともにに行った。

【重点項目】

（取組4）都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

総括コーディネーターを中心として、府内の識字・日本語学習行政担当者が一堂に会する「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」を年2回実施し、日本語教育に係る情報の交換・共有を行うとともに、同会議において府内市町村を8ブロックに分けてブロック別会議を行うなど、府と市町村の識字・日本語学習行政担当者が連携・協力して市町村域を越えた取組をすすめた。

関連団体との連携・協力として、大阪府内の識字・日本語施策や事業の推進に中心的な役割を担ってきた「大阪識字・日本語協議会」から指導・助言を受け事業を実施した。さらに、識字・日本語学習活動に長年取り組み、府内の識字・日本語学習活動に関するネットワークを有している大阪府識字・日本語学習コーディネーターと総括コーディネーターとの会議である「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」を年3回実施し、コーディネーター間の連携・協力を図りながら日本語教育に係る情報の交換・共有をすすめた。（再掲・府単費にて実施）

（取組5）日本語教育人材に対する研修（研修受講者数：768人）

①（池田市）オンライン 日本語サロンボランティア養成講座（新規者対象）

実施日：10月9日、12日 参加者：10名

在住外国人とボランティアの役割、コミュニケーションの取り方等についての講義

②（池田市）オンライン Zoomによる日本語交流のヒント（新規者、既存ボランティア対象）

実施日：10月22日 参加者：20名

Z o o mを通した日本語交流の方法についての講義

③（池田市）「きいてまねしてはなして」勉強会

実施日：12月17日 参加者：15名

昨年度、文化庁委託事業を活用して大阪府教育庁が作成した「きいて まねして はなして」の活用法の勉強会

④（箕面市）講演「コロナ禍での外国人市民～大阪ミナミでの支援活動から～」

講師：金光敏（特定非営利活動法人コリア NGO センター事務局長）

実施日：9月5日 参加者：43人、オンライン視聴：58回

コロナ禍での在住外国人の現状に関する講義

⑤（箕面市）講演「ボランティアの扉を開けて 自分再発見！」

講師：須貝昭子（特定非営利活動法人市民活動フォーラムみのお理事長）

実施日：9月19日 参加者：42人、オンライン視聴：23回

ボランティアを始めようとする人などへの心構えなどに関する講義

⑥（箕面市）講演とワークショップ「やってみよう！対話型学習の実践～大阪府教育庁「きいて まねしてはなして」を使つての日本語学習支援の試み～」

講師：安田乙世（NPO法人おおさかこども多文化センター理事）

実施日：10月10日 参加者：30人、オンライン視聴：46回

昨年度、文化庁委託事業を活用して大阪府教育庁が作成した「きいて まねして はなして」の活用法の講義

⑦（箕面市）講演「地域日本語教室とボランティアの役割」

講師：澤田幸子（一般財団法人海外産業人材育成協会日本語講師）

実施日：10月17日 参加者：31人

地域の教室で求められる、ボランティアの役割についての講義

⑧（箕面市）日本語指導に関する研修（全4回）

実施日：9月13日 参加者：6人

実施日：10月11日 参加者：8人

実施日：11月8日 参加者：8人

実施日：1月10日 参加者：6人

日本語学習指導に携わる方々等を対象にした日本語指導研修会

⑨（箕面市）ワークショップ「これからのひまわりについてみんなで考えましょう！！」

実施日：8月28日 参加者：15人

日本語学習支援「ひまわり」の運営方針検討会

⑩（松原市）「日本語学習パートナー入門講座」（全4回）

実施日：1月24日 参加者：24人

実施日：3月7日 参加者：14人

実施日：3月14日 参加者：14人 実施日：3月28日 参加者：14人 日本語学習パートナーの役割や日本語指導方法についての研修 ⑪（和泉市）日本語学習支援者スキルアップ研修（中止） ⑫（和泉市）日本語ボランティア養成講座（全10回） 実施日：10月5日～12月14日 参加者 96人 日本語サロンで日本語ボランティアを希望する方々へ向けた教え方や教材の使い方などの養成講座 ⑬（貝塚市）日本語ボランティア養成講座（全16回） 実施日：10月3日～2月6日 参加者 119人 日本語学習支援者の育成を目的にした、ボランティア養成講座 ⑭（貝塚市）ブラッシュアップ講座「やさしい日本語ってなに？」 実施日：11月28日 参加者：53人 学習支援者に関心の高いテーマである「やさしい日本語」について学ぶ講座 ⑮（阪南市）日本語指導者養成講座（全14回） 実施日：10月24日～1月31日 参加者 対面型139人 リモート型103人 阪南市日本語クラブと外部講師による日本語学習支援者の育成講座			
（取組6）地域日本語教育の実施 【 】都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育 【 】日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育			
実施箇所数	39 か所	受講者数	376人 （のべ）8914人
活動1	【名称】（豊中市）外国人のための日本語教室（新設） 【目標】外国人向けの日本語教室を開講し、就労や生活に役立つ日本語能力を向上するとともに、日本人との交流を通じて、地域で安心して暮らすことができるような仕組みづくりを行う。 【実施回数】対面週1回（1回2時間程度）、オンライン週1回（1回1時間程度） 【受講者数】20人 （のべ）対面 93人、オンライン 317人 【実施場所】対面 庄内公民館、オンライン とよなか国際交流センター 【受講者募集方法】市広報誌、ホームページ等 【内容】日本語教育に精通した者が外国人向けの日本語の授業を、昨年度大阪府教育庁が文化庁委託事業で作成したテキスト「きいて まねして はなして」を用いて実施した。 【開始した月】令和2年10月 【講師】ボランティア7人（日本語教師数 0人） 【関係機関との連携】（公財）とよなか国際交流協会 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有		

活動 2	【名称】(池田市) I M C にほんごサロン (オンライン又は対面) (既設) 【目標】日本に来て間もない外国人や長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会が無かった方が、地域で日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】 89 回 (1 回 50 分～1.5 時間) 【受講者数】 10 人 (のべ) 599 人 【実施場所】 池田市国際交流センター 【受講者募集方法】 市広報誌、センター F B ・ 情報誌 【内容】生活に役立つ会話を中心とした日本語をボランティアと共に学びながら交流した。対面又はオンラインで火曜日、木曜日、土曜日の午前に開催した。 【開始した月】 7 月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有
活動 3	【名称】(池田市) I M C 日本語教室 (オンライン又は対面) (既設) 【目標】外国人が、社会で安心して暮らせる程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】 14 回 (1 回 1.5 時間)。 【受講者数】 12 人 (のべ) 161 人 【実施場所】 池田市国際交流センター 【受講者募集方法】 市広報誌、センター F B ・ 情報誌 【内容】日常会話が可能な外国人を対象に、より円滑なコミュニケーション能力の向上をめざした。 【開始した月】 7 月 【講師】 1 人 (日本語教師) 【関係機関との連携】 無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有
活動 4	【名称】(池田市) 子どもの日本語教室「TBY - To Be Yourself 外国にルーツを持つ子どもの居場所事業」(既設) 【目標】来日間もない、あるいは長く日本で生活しているが日本語の習得が不十分な子どもへ、ボランティアの協力により日本語学習支援の場所を提供することで、学校生活をサポートする。 【実施回数】 9 回 (1 回 1 時間～) 【受講者数】 5 人 (のべ) 19 人 【実施場所】 池田市国際交流センター 【受講者募集方法】 市広報誌、センター F B ・ 情報誌 【内容】マンツーマンで子どもの状況に合わせた日本語学習を行った。

	【開始した月】 9月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 5	【名称】 (箕面市) 日本語読み書き教室「ささゆり」(既設) 【目標】 来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会(日本語読み書き)の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】 24 回 (1 回 2 時間。うち、オンラインのみ 3 回含む) 【受講者数】 17 人 (のべ) 402 人 【実施場所】 箕面市立多文化交流センター 【受講者募集方法】 市 HP や多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】 市民団体「T.E.S にほんご」による指導のもと、入門レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。カリキュラムについては、市販の教材「Basic Kanji Book」を活用し、レベル別でのグループレッスンを行った。また、ボランティアによる就学前までの保育をもうけ、子育て世代でも安心して日本語を学習できる機会を提供した(多文化子ども保育全 15 回実施)。 【開始した月】 5 月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 市民団体「T.E.S にほんご」 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 6	【名称】 (箕面市) 日本語会話教室「あかね」(既設) 【目標】 来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会(日本語会話)の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】 24 回 (1 回 2 時間。うち、オンラインのみ 3 回含む) 【受講者数】 20 人 (のべ) 433 人 【実施場所】 箕面市立多文化交流センター 【受講者募集方法】 市 HP や多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】 市民団体「T.E.S にほんご」による指導のもと、入門レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。カリキュラムについては、市販の教材「みんなの日本語」を活用し、レベル別でのグループレッスンを行った。 また、ボランティアによる就学前までの保育をもうけ、子育て世代でも安心して日本語を学習できる機会を提供した。 【開始した月】 5 月 【講師】 ボランティア

	【関係機関との連携】市民団体「T.E.S にほんご」 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 7	【名称】（箕面市）定住者のための日本語読み書き教室「萱野にほんご」（既設） 【目標】地域で生活する外国人市民に対して、生活に必要な日本語を習得してもらう。 【実施回数】34 回（1 回 1.5 時間、うち、オンラインのみ 9 回含む） 【受講者数】8 人 （のべ）255 人 【実施場所】箕面市立萱野中央人権文化センター 【受講者募集方法】市 HP や多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。 【開始した月】5 月 【講師】ボランティア 【関係機関との連携】公益財団法人箕面市国際交流協会 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 8	【名称】（箕面市）日本語学習支援「ひまわり」（既設） 【目標】地域で生活する外国人市民に対して、生活に必要な日本語を習得できる機会を提供すると同時に、ボランティアとの交流を通じて、地域とのつながりや相互理解を促進する。 【実施回数】27 回（1 回 1.5 時間。うち、オンラインのみ 2 回含む） 【受講者数】10 人 （のべ）234 人 【実施場所】箕面市立多文化交流センター 【受講者募集方法】市 HP や多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】相互理解の促進を図りながら、ボランティアが外国人市民の日本語学習の支援を行った。 【開始した月】6 月 【講師】ボランティア 【関係機関との連携】公益財団法人箕面市国際交流協会 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 9	【名称】（箕面市）おやこで日本語「さんさんクラブ」（既設） 【目標】孤立しやすい子育て中の外国人市民が、「子育て」という共通点を持つボランティアから日本語を学び、地域とのつながりや相互理解を促進する。 【実施回数】12 回（1 回 1.5 時間。うち、オンラインのみ 4 回含む） 【受講者数】2 家族 （のべ）48 人 【実施場所】箕面市立多文化交流センター 【受講者募集方法】市 HP や多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】「子育て」という共通点を持つボランティアと外国人市民が子どもと一緒に参加

	し、日本語でコミュニケーションをとりながら、相互理解を図った。 【開始した月】 6 月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 公益財団法人箕面市国際交流協会 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 10	【名称】 (箕面市) 東にほんご (新設) 【目標】 地域で生活する外国人市民に生活に必要な日本語を習得してもらう。 【実施回数】 22 回 (1 回 1.5 時間。うち、オンラインのみ 3 回含む。) 【受講者数】 7 人 (のべ) 132 人 【実施場所】 箕面市立東生涯学習センター 【受講者募集方法】 市 HP や多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】 ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。 【開始した月】 8 月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 公益財団法人箕面市国際交流協会 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 11	【名称】 (箕面市) 西南にほんご (新設) 【目標】 地域で生活する外国人市民に生活に必要な日本語を習得してもらう。 【実施回数】 21 回 (1 回 1.5 時間。うち、オンラインのみ 2 回含む) 【受講者数】 5 人 (のべ) 74 人 【実施場所】 箕面市立西南生涯学習センター 【受講者募集方法】 市 HP や多文化交流センターHP、チラシなど 【内容】 ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。 【開始した月】 8 月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 公益財団法人箕面市国際交流協会 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 12	【名称】 (箕面市) 放課後日本語教室 (新設) 【目標】 箕面市内の小・中学校に在籍する日本語理解が困難な児童・生徒に、日本での生活に必要な日本語を身に付けてもらう。 【実施回数】 72 回 (1 回 1 時間～2 時間) 【受講者数】 7 人 (のべ) 502 人 【実施場所】 市内小・中学校 5 校 (箕面市立中小学校、箕面市立萱野北小学校、箕面市立第二中学校、箕面市立第三中学校、箕面市立第四中学校) 【受講者募集方法】 外国にルーツをもつ児童・生徒及び保護者への声かけ 【内容】 ボランティアが、それぞれの日本語習得度に基づき日本語指導を行った。

	【開始した月】 7月 【講師】 5人（うち、日本語教師1人） 【関係機関との連携】 無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 13	【名称】（茨木市）日本語教室（既設） 【目標】 来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】 1027回（1回1.5時間）※マンツーマンの回数 【受講者数】 78人（26人、30人、14人、8人×1か所）（のべ）1027人 【実施場所】 茨木市立中央公民館、沢良宜いのち愛ゆめセンター、 豊川いのち愛ゆめセンター、総持寺いのち愛ゆめセンター 【受講者募集方法】 市の広報誌、HP、ちらし 【内容】 受講生と講師のマンツーマン方式を基本とし、受講生のレベルにあった日本語教室を年間通して実施した。指導は、元教師等をはじめ地域住民から募った日本語学習支援者が行った。 【開始した月】 5月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 14	【名称】（交野市）学びの場（既設） 【目標】 来日したばかりの人や、留学生又は長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対して日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】 25回（1回2時間） 【受講者数】 6人（のべ）143人 【実施場所】 交野市立青年の家 【受講者募集方法】 市のHPで募集する 【内容】 「みんなの日本語」を教材として、学習者の日本語能力に応じて、学習支援者がマンツーマンによる授業を行った。国籍や世代の差を超えた学習者の交流のため、各国の料理を持ち寄ったり、習字をしたり、といった異文化交流等も行い、学習だけではなく、みんなが楽しんでお互い学べる場とした。 【開始した月】 6月 【講師】 ボランティア 【関係機関との連携】 無

	標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 15	【名称】(交野市) 日本語プラザ (既設) 【目標】来日したばかりの人や、留学生に対して日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】41 回 (1 回 1 時間 30 分) 【受講者数】6 人 (のべ) 156 人 【実施場所】交野会館 【受講者募集方法】HP・ポスター等で募集する 【内容】入門レベルの日本語学習者を対象とし、個々のレベルに合わせてマンツーマンで地域の日本語学習支援者により指導を行った。 【開始した月】6 月 【講師】ボランティア 【関係機関との連携】無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 16	【名称】(東大阪市) よみかき教室 (既設) 【目標】戦争と貧困、差別と人権抑圧等により読み書きに不自由する生活を長年余儀なくされた人々に対して、学習機会の拡充を図るとともに、日常生活に不自由のない程度の読み書きができることを支援する。 【実施回数】42 回 (1 回 2 時間) 【受講者数】5 人 (のべ) 204 人 (3 か所：あさ 45 人、ひる 89 人、よる 70 人) 【実施場所】(あさ)東大阪市若江岩田駅前市民プラザ、(ひる)東大阪市立東体育館、(よる)東大阪市立菱屋西公民分館永和分室 【受講者募集方法】市政日より及び市 web サイトで募集 【内容】新聞に掲載されているエッセーや日常生活でよく使われることわざや慣用語句、熟語などの教材を用意した。人権感覚に優れた教職経験等がある講師 1 人につき 1～2 人の班に分かれて、ひらがなから漢字まで、学習生の読み書きの程度にあった支援を行った。 【開始した月】10 月 (5 月開始予定だったが、5～9 月は新型コロナウイルス感染防止対策のため中止) 【講師】ボランティア 【関係機関との連携】「蛇草識字学級」「荒本識字学級」「布施中学校夜間学級」「意岐部中学校夜間学級」等が加盟する【国際識字年推進東大阪連絡会】と連携 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 17	【名称】(柏原市) かしわら日本語教室 (既設) 【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった

	人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】26日（1日3時間、1.5時間×2） 【受講者数】27人（のべ）702人 【実施場所】柏原市立国分図書館 【受講者募集方法】市WEBサイトでの受講案内 【開始した月】4月 【内容】大学教授によるコーディネイトの元、日本語講師の紹介をして頂き、初級・中級レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。講師及びレベルごとに4つのクラスを設け、受講者のレベル別の授業を行った。受講希望者は事前に申込書の提出とレベル分けを行い、次期受講開始期日（おおよそ四半期ごと）から受講を始めた。 【講師】2人（うち日本語教師数）2人 【関係機関との連携】無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 18	【名称】（松原市）国際広場“もめん”（既設） 【目標】学習者と学習支援ボランティア（日本語学習パートナー）が日本語学習を通じてお互いに学びあう交流の場、身近な生活の場（公民館）にあって気軽に通いやすく、異なる文化的背景を持つ人が同じ市民として子育てや買い物・病院などの生活情報を交換できる場として、また、日本語が不自由なために地域や家庭で孤立しがちな人の「居場所」として機能する場を設ける。 【実施回数】51回（1回1.5～2時間） 【受講者数】10人（のべ）384人 【実施場所】松原市立松原公民館、松原市立新町公民館 【受講者募集方法】市の広報紙やHP、チラシで募集する 【内容】学習者それぞれの希望に沿った日本語学習を行う。また日本語学習支援者と異文化交流をする時間も設けている。 【開始した月】6月 【講師】ボランティア25人（日本語教師数0人） 【関係機関との連携】無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 19	【名称】（松原市）日本語よみかき教室「で愛」（既設） 【目標】日本語の読み方とひらがな・カタカナ・漢字の書き方の勉強をし識字力をつける。 【実施回数】28回（1回2時間） 【受講者数】5人（のべ）115人 【実施場所】松原市立中央公民館

	【受講者募集方法】市の広報紙やHP、チラシで募集する 【内容】小学校1年生レベルのよみかきから始め、学習者の希望に沿って学習を進めていく。 【開始した月】4月 【講師】ボランティア3人（日本語教師数 0人） 【関係機関との連携】無 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 20	【名称】（和泉市）日本語サロン（既設） 【目標】外国人受講者のニーズに応じた日本語の習得を、日本語ボランティアがサポートすることにより、受講者及びボランティアが双方の文化に触れて相互理解を深め、多文化共生施策及び国際交流施策の推進に資することを目的とする。 【実施回数】53回（1回1時間30分） 【受講者数】10人（のべ）275人（フチュール和泉114人・和泉シティプラザ161人） 【実施場所】フチュール和泉、和泉シティプラザ 【受講者募集方法】市の広報誌やHPにより募集 【内容】市が主催する日本語ボランティア養成講座（全10回）を修了した日本語ボランティアが、地域に在住する外国人（市内在住に限定しない）を対象に、受講者のニーズに応じた日本語指導をマンツーマンで行った。 【開始した月】7月 【講師】58人（ボランティア登録者数）（日本語教師数 0人） 【関係機関との連携】和泉市国際交流協会へ登録する日本語ボランティアが活動する。 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 21	【名称】（和泉市）和泉読み書き教室（既設） 【目標】文字の読み書きが困難な方を対象に、学習機会を提供することを通じて、識字施策の推進を図ることを目的とする。 【実施回数】54回（1回2時間） 【受講者数】5人（のべ）123人 【実施場所】和泉市コミュニティセンター（朝の教室・夜の教室） 【受講者募集方法】市の広報誌で募集 【内容】ボランティア講師が、市内に在住又は在勤する15歳以上で文字の読み書きが困難な方を対象に、受講者のニーズに応じた日本語の読み書き指導をマンツーマンで行った。 【開始した月】6月 【講師】12人（ボランティア登録者数）（日本語教師数 0人） 【関係機関との連携】無

	標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 22	【名称】(和泉市) いずみ識字学級 (既設) 【目標】文字の読み書きが困難な方を対象に、学習機会を提供することを通じて、識字施策の推進を図ることを目的とする。 【実施回数】84 回 (1 回 2 時間) 【受講者数】7 人 (のべ) 317 人 【実施場所】和泉市立北部総合福祉会館、旭第二団地集会所、和泉市立人権文化センター 【受講者募集方法】市の広報誌で募集 【内容】教室の運営をいずみ識字ボランティアの会に委託し、ボランティア講師が、市内に在住又は在勤する 15 歳以上で文字の読み書きが困難な方を対象に、受講者のニーズに応じた日本語の読み書き指導を行った。 【開始した月】7 月 【講師】12 人 (ボランティア登録者数) (日本語教師数 0 人) 【関係機関との連携】いずみ識字ボランティアの会に出欠状況や学習内容の把握、研修会や交流会の企画・運営等の教室運営に係る業務の一部を委託し、協働して教室運営を行った。 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
活動 23	【名称】(貝塚市) 日本語サロン (既設) 【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。 【実施回数】6 月～1 月 (合計 8 カ月) 授業数約 122 回/月 (1 回 1 時間) 【受講者数】50 人 (のべ) 1,576 人 【実施場所】かいづか国際交流協会事務所、ひと・ふれあいセンター 【受講者募集方法】かいづか国際交流協会の会報紙やHP、ボランティアグループの呼びかけ等で募集 【内容】地域住民から募ったボランティアが日本語学習指導者となり、日本語学習者 (在住外国人) のレベルに応じたカリキュラムを策定し、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。 【開始した月】6 月 【講師】ボランティア 17～25 人 (月により異なる) (日本語教師数 0 人) 【関係機関との連携】かいづか国際交流協会 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無

活動 24	【名称】(阪南市) 日本語教室(既設) 【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対し、マンツーマン方式で日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに言葉の違いから生じる様々な問題を解決し、生活に困らない程度や就労に役立つ日本語能力の獲得を支援する。また、指導を通じて国際理解を深め、国際交流を図る。 【実施回数】受講者 1 人週 1 回 (1 回 1 時間 30 分) 計 461 回 【受講者数】46 人 (のべ) 623 人 【実施場所】阪南市立東鳥取公民館 【受講者募集方法】市の広報誌やHPで募集した。 【内容】テキスト「みんなの日本語」等を活用し、受講者の個人のレベルに合わせて、日本語養成講座を修了したもので構成される阪南市日本語クラブ員が、週 1 回を基本にマンツーマンで指導する方式を取る日本語教室を開催した。 【開始した月】6 月 【講師】ボランティア 40 人 (日本語教師数 0 人) 【関係機関との連携】阪南市日本語クラブ 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：無
その他の取組	
・日本語教室受講者向け防災教室 (池田市) 受講者に対して、災害時の避難場所や避難方法について指導 ・2020 年識字展(識字・日本語学習の成果である学習生の作品の展示会) (東大阪市) 東大阪市内の夜間中学等と共同で、書道などの作品を公共施設に展示 ・市人権協会と日本語読み書き教室が中心となり、「生活者としての外国人」について、多言語パンフレットの作成 (大阪狭山市) 在住外国人に対して、教室の案内や行政情報を記したパンフレットを作成 ・日本語サロン交流会 (和泉市 中止) ・堺・泉北ブロックよみかき交流会 (和泉市 中止)	
3. 効果	
(1) 効果 ①定量評価 ・総合調整会議：前年度 (2) 回 当年度 (2) 回 ・総括コーディネーター配置数：前年度 (0) 人 当年度 (2) 人 ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度 (0) 人 当年度 (4) 人 ・実施した日本語教育人材に対する研修：(40) 回 (8 箇所) 当年度 (54) 回 (8 箇所) ・実施した日本語教室：前年度 (3983) 回 (31 箇所) 当年度 (3252) 回 (40 箇所)	

②定性評価

(i)連携機関の広がりについて

本事業を活用することにより今年度は12市の日本語教育に係る取組に対して補助を行った。本事業の活用以前は、市町村の取組に対して府と市町村との間で実施内容や実施時期の協議は行われていなかったが、効果的・効率的な取組となるよう協議・調整が行われるようになった。

(ii)新たな連携機関と連携した内容

今年度より12市が直接、あるいは委託して行った学習支援者養成のための講座実施や地域日本語教育の実施など日本語教育に係る取組について、内容や日程等の協議を12市及び委託先機関と連携して行った。

(iii)どのような体制を構築できたか

本事業の活用以前は、府と市町村、市町村と市町村の間で日本語教育に係る取組の調整は行われておらず、内容や取組実施日の重複など、効果的ではない取組が散見された。今年度より総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーター、行政担当者などの間で情報の提供、共有が進んだため、取組実施日の調整や先進事例の共有などが行われるようになり、より効果的・効率的な体制へ進展した。

(iv)事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

12市が実施する取組について、府に情報提供があった場合は府内他市町村へ速やかにメールでの情報提供を行うなどの周知・広報に努めた。また、市町村識字・日本語学習担当者連絡会議やブロック別会議を利用して、事業成果を発信できる場所を用意することにも努めた。

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

学習支援者不足という課題解決のための取組として、学習支援者養成のための講座実施を計画していた参画市が多くあったが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、計画通りの講座実施に困難が生じた。そのような状況の中、補助事業を活用し、アクリル板やフェイスシールドなどの消耗品を用意して講座を実施したり、Z o o mを利用したオンライン形式に切り替えて講座を実施した市があった。

(2) 今後の展望

補助事業の必須事項である総合調整会議の設置、総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターの配置について、総合調整会議の設置と総括コーディネーターの配置は府が、地域日本語教育コーディネーターの配置は参画市町村が行ったが、参画市町村によっては、人材や予算上の理由から今年度地域日本語教育コーディネーターを配置することができなかった市町村があった。今後は、日頃から域内の教室間巡回を行っている行政職員が日本語教育コーディネーターに就くなど、弾力的な運用をすることによって、府内の地域日本語教育の総合的な体制づくりが進展するよう改善を検討する。